

「気候変動適応とグリーン開発のための統合的リスクガバナンス・セミナー」 傍聴報告

2013年11月21日
一般社団法人海外環境協力センター（OECC）

本傍聴報告は、2013年11月13日～11月22日にポーランド・ワルシャワで開催された国連気候変動枠組条約第19回締約国会議（COP19）において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

- タイトル：気候変動適応とグリーン開発のための統合的リスクガバナンス・セミナー
(Seminar on Integrated Risk Governance for Climate Change Adaptation and Green Development)
- 日時：2013年11月21日（木）14:45～16:45
- 主催：中国科学院（China Academy of Sciences(CAS)）
- 会場：China Pavilion, Room 36-37, Warsaw National Stadium
- プレゼンター：
Qien Ye（北京師範大学）、Duan Honxia（厦門大学）、Qu Jianshang（中国科学院）、
Puja Sawhney（（公財）地球環境戦略研究機関）、Xie Dongdong（上海市浦東区庁）

■ イベントの概要

中国、アジアの研究者・実務者を招き、気候変動によるリスクの統合的ガバナンスとグリーン開発の考え方、気候変動による様々なリスクにかかるベースデータ、それらを踏まえた適応の促進の取組等について紹介が行われた。

1. Qien Ye（北京師範大学）：「統合的リスクガバナンス（Integrated Risk Governance）」

- 中国を含むアジアでは様々なリスクが顕在化しており、今後経済・社会の発展を進めていくためには、これらに対してあらかじめ想定した形で取組を進めていかなければならない。とりわけ、気候変動は自然災害の頻度や規模に大きな影響を与え、既に多くの被害を出しているといえる。また、人口増や急激な高齢化、以前として残る貧困問題など、リスクを受け止める社会の属性にも注意を払わなければならない。リスクへの対処の仕方が変わってくることを意味している。例えば、都市開発やインフラ整備などは、その顕著な例であり、気候変動への適応策もこれらによって大きく変わってくるはずである。

2. Duan Honxia（厦門大学）：「中国の開発－東から西へ（China's Development from the East to the West）」

- 中国の経済開発は伝統的に東の沿岸部から西の内陸部の順番で進展してきた。一人あたりのGDPは上海や北京等の東部では9,137USDに対してチベット自治区や貴州省な

どの西の内陸部は**4,952USD**と低くなっており、所得格差が大きな課題となっている。

- 気候変動によるリスクは、これらの所得格差や開発レベルの進展状況の違いにより、西部内陸部により大きく影響を与える可能性がある。これらのリスクに備え、グリーン開発を進めていくためには、異なる開発戦略を策定する必要がある。特に西部地区においては、貧困削減が最も優先度が高く、また生態系保全に優先的に投資をすることが有益である。また、それらのためのキャパシティ・ビルディングを進めることが不可欠である。

3. Qu Jiansheng (中国科学院) : 「中国の低開発地域におけるグリーン開発のための道程 (Green Development Pathways in underdeveloped Region in China)」

- 途上国である中国については、先進国とは異なる課題が存在している。多くの先進国は工業化のプロセスを経て所得を向上させたものの、グリーン開発の視点に置いてこれらを進めていたわけではなかったため、一旦汚染を行い、その後環境保全という道筋をたどっている。中国を含む開発途上国はこれらの教訓から学ぶべきである。
- 中国におけるグリーン開発の課題は、多岐にわたるが、多くの問題は国内での地域格差が大きいことに起因しているといえる。特に、西部貧困地域においては、原単位での炭素排出が極めて高く、経済開発の進展と **CO2** の排出が比例している（東部では、これらを引き離すことに成功した）。

4. Puja Sawhney ((公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES) バンコク事務所) : 「アジア太平洋適応ネットワーク (Asia-Pacific Adaptation Network)」

- アジアにおける環境と開発の課題は様々であり、貧困、知識と技術の不足、高い人口増加率などあり、これらは気候変動への適応を進める上でも大きな課題となっている。その上で、グリーン開発を進めるという事は、極めて統合的な視点が要求される。
- アジア太平洋適応ネットワーク (Asia-Pacific Adaptation Network: APAN) は、適応にかかる知識を共有し、キャパシティを高めていくための地域ネットワークである。アフリカやラテンアメリカ等の地域ネットワークと並ぶ地域ネットワークであり **Global Adaptation Network (GEN)** の一つ。UNEP が事務局となっており、**48** か国が参加している。課題別には、水資源、山岳地帯、農業などのフォーカスエリアがある。

※APAN ウェブサイト (<http://www.apan-gan.net/>)

- 政策決定者の意思決定をファシリテートする知識の共有を進めることが重要である。また適応のデータベースを運営しており、これらにはグリーン開発の取組も広く含んでいる。例えば、最近開催した気候変動の損失と被害 (**Loss and Damage**) にかかるワークショップでは、科学的側面にフォーカスを絞って議論をした。また **Annual Adaptation Forum** を開催し、政策担当者、科学者、NGO などが情報共有を行う重要な場となっている。

5. Xie Dongdong (上海市浦東区庁) : 「グリーン工業開発と政府の役割－太陽光パネル製造業の経験から (Green industry development and the role of government –take the example of solar PV industry)」

- 中国の太陽光パネルメーカーは、再生可能エネルギー産業の成長に伴い、生産拡大ブームを迎えたが、生産過剰により、その後、倒産が相次いだ。
- 中国政府の役割は、安価な土地を提供し、税金を低下させることが重要であり、政府の積極的な市場介入がなければ、環境製品市場は同様の失敗を起こしてしまう可能性が高い。環境製品メーカーは市場における経験が未熟なため、このようなことが起きてしまう。太陽光パネルの市場の失敗に学び、政府は積極的な役割を果たさなければならない。

■ 質疑応答

なし

(報告者 : OECC 加藤 真)

COP19 サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版 : http://www.mmechanisms.org/relation/details_oecc_COP19report.html